

大森善左衛門の 釣川付替え工事からその後

- 1778年(安永7年6月)
・大雨で洪水、堤土手、川土手が切れ、田に砂が入る。
- 1779年(安永8年8月)
・8日間大雨で洪水がおこる。
- 1782年(天明2年8月)
・大雨で洪水となり、穂が水に漬かり、損害が多くでる。
- 1784年(天明4年5月)
・大雨で東郷村高瀬川土手がくずれ郷村の田畑が水没、苗がくさる。

○ 1786年(天明6年)
・郡奉行(宗像・表糟屋・裏糟屋) 富永甚右衛門(とみながじんうえもん)が、釣川による水害、凶作救金借用を申し出る。

○ 1791年(寛政3年)
・郡奉行 富永軍次郎(とみなが ぐんじろう)が、釣川の赤間辻田橋から江口(洲口)までの約9キロ、底さらい・堀切をおこなう。

○ 1791年(寛政3年)
の川床さらい

・郡奉行 富永軍次郎(とみなが ぐんじろう)、大庄屋たちがおこなった釣川の赤間辻田橋から江口(洲口)までの約9キロに渡る川床さらい。



□ 人夫: のべ 25,000人
 ○ 賃銭: 銀15貫

富永軍次郎、大庄屋たちがおこなった釣川の10カ所の川床さらいは、3月21日から4月1日までの12日間でおこなった。

□ 床さらいの様子

出夫三千人左右分け、合図は太鼓を打ち、交代の太鼓を打ち立てる。
 休憩所には村々の織(のぼり)を押し立て、声を出して威勢よく作業を行う...云々

釣川 (赤間、辻田橋付近)

定石

いちばんこのしたかわははこけんはん
 一番自是下川中五間半
 かんせいさん、かのい、四月に定む
 寛政三辛亥四月定
 1791年 約9m

辻田橋横に立つ一番定石 約1.5km 約9.7km

これよりすぐのなまうちせりまで、長さ五千四百二十けん
 自是洩口波打際迄延長五千四百廿間
 このしたより、たぐきわけのうちまで、八百六十一けん
 自是下田久鑑分之内迄八百六十一間

◎ 床さらいをしたところを歩く

一番定石

辻田橋付近

・辻田橋に一番定石がある。川に転落して、村娘が洗濯台になっている。この標石の保存に留意されんことを望む。

二番定石

田久鑑橋付近

・田久鑑橋三十間に標石がある。「自是上辻田橋迄八百六十一間 寛政三辛亥四月 自是下曲川尻迄九百四十八間 二番 自是下川幅六間」

三番定石

東郷橋東側(朝野川合流)付近

・天理教会堂そば県道筋に標石はある。「自是上田久鑑分迄九百四十間 三番 自是下川幅十間 自是下田熊川尻迄六百二十間 寛政三辛亥四月定」

第四定石

河東橋下五間許りの所。
 「自是上曲川尻迄六百二十二間 四番 自是下川幅十間 自是下東江水利川尻迄六百七十三間 寛政三辛亥四月定」

五番定石

亀石橋(大井川合流)付近

大井つくりで百間許す下郷水引川尻にある。「自是上田熊川尻迄六百七十三間 寛政三辛亥四月定 自是下河東川尻迄百五十一間 五番 自是下川幅十一間」

六番定石

河東川尻 ?

河東川尻にあるはず。不明。



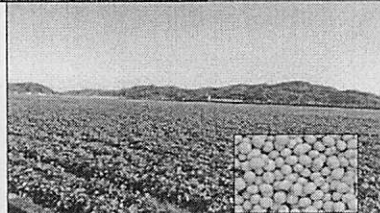
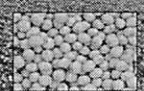
七番定石	八番定石
 <p>上多礼橋河東村近</p>	 <p>多礼橋宿谷川合流付近</p>
<p>多礼一本杉付近竹藪の中、不明。</p>	<p>・宿の谷川(大谷川)小溝に転落している。埋まっていたものを江口の石松園五郎君の力を借りて掘り出して向岸に立てかける。「八番 自是下川幅十五間 寛政三辛亥四月定 自是上多禮一本杉迄二百四十二間半 自是下車田尻高橋迄二百六十七間半」</p>

九番定石	十番定石
 <p>元川端橋付近</p>	 <p>砂山橋(樽見(吉田)川合流)付近</p>
<p>・川端橋(高橋が本溝)にある。「九番 自是下川幅十七間 寛政三辛亥四月定 自是上田嶋大谷川尻迄二百六十七間半 自是下吉田側尻迄四百四十八間」</p>	<p>・吉田川に「十番 此所川二十八間 寛政三辛亥四月定 自是上車田尻高橋迄四百四十八間 自是下洲口波打際迄八百十九間」とある。半折れ、釣川護岸石垣上で川に落ち込みかけ危なく、県道上に押し上げ深田側耕地の中に押落しておいた。</p>

- 1797年(寛政9年)
 - ・5月18日夜半大雨、六十年以来の大洪水となり、所々大破損する。
- 1812年 文化9年
 - ・河東村庄屋 薄 興六(すすきこうろく)が、河東村は大 水に悩み、村の者に呼びかけ、藩に願い出て、改修工事をおこない水害を防ぐ。
- 1819年 文政2年
 - ・大水で船宮神社を岡の上に移す。
- 1848年 嘉永元年
 - ・深田光右衛門(ふかた みつうえもん)私財を出して土穴村 にじょうぶな堤防をつくる。
- 1856年 安政3年
 - ・東郷村庄屋 岡田千才郎(おかだ せんざいろう)が、かんがいと水防の工事をおこなう。

現在、釣川は、宗像市民の「命の水」として



	<p>宗像の 米どころ</p> <p>豊かに実った稲穂</p>
<p>大豆の収かく</p> <p>品質は、西日本一</p> 	 

わたしたちの今の豊かなくらしは、多くの先人の人々が、くらしを豊かに、くらしをよくしたいという願い、そこには多くの人たちの苦勞や努力があったことを忘れてはなりません。

「大森善左衛門と釣川大改修工事」
おわり

